

週刊

学びのコミュニティ

第10号

平成21年4月22日発行

【ご紹介】今回は学生ワーキングの取り組みについて紹介させていただきます。

徳島大学には学生ワーキングと呼ばれる教育改善のための活動がありますが、皆さんご存知でしょうか？ここで紹介したいと思います。正式には「**教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ**」という名前で、徳島大学における教育に関する現状分析、改善への企画・提言を行い、教育改善推進に貢献することを目的として設けられたものです。常三島地区での活動について紹介していきましょう。メンバーは総合科学部と工学部の各学科から2名の学生と教員（総合科学部、工学部、全学共通教育センター、大学開放実践センターから1名）で構成されています。

いったいどんな活動をするのかというと、最も重要な点は「**学生の目線で**」教育の向上を図るにはどうしたら良いかということを考えていくことです。大学の運営は教員の計画が中心となりますが、その計画に意見を言い、また学生が日々の授業で感じている点を大学の改善計画につなげていく方策を考えることです。

具体的には昨年は、「教養教育FDフォーラム」「英語教育FDフォーラム」を開催して、学生、教員に加えて社会人が意見を交換しました。また、大学内外で開かれる教育改善のプログラム（FDフェスタ、FDキャンプ、地域に開かれた教養教育市民フォーラム、岡山大学 i*See2008 など）に積極的に参加あるいは一部は企画の段階から参加しています。学生がこういった行事で発言していくことで、多様な視点から教育改善を考え、学生の満足度が高い教育の充実を目指しています。

現在は、毎週金曜日の昼休み（12:00～12:30）に昼ご

はんを食べながら、毎回テーマを設定して話し合いを行っています。4月になってからは、「授業評価アンケートを考える」、「履修・受講登録での問題点」についての話し合いを行いました。このミーティングはどなたも参加自由ですので、メンバー外の方もご参加ください。

また、共通教育4号館1階、総合科学部3号館スタジオオ、工学部K棟には「目安箱」を設けています。上のランチミーティングに行く時間がないという方は、こちらに意見をお寄せください。昨年は目安箱への投書をきっかけとして、試験期間中における図書館の開館時間延長を実現しました。

昨年より「社会人ボランティア

を活用した教養教育」が実施されており、学生、教員と社会人が教養教育の授業内外で「学びのコミュニティ」をつかって、教育の向上を図る活動をしています。学生ワーキングはその活動の原型ともいえます。今後は学生ワーキングの活動と学びのコミュニティが有機的に活動を共有して、より良い大学を目指していきたいと考えています。



これまでの活動をまとめたホームページ

<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/FD/gakusei.html>

（学生ワーキング世話人 総合科学部 齊藤隆仁）

～編集後記～

学生支援室の利用者がじわじわ増えて来ています。本を読んだり、自習をしたり、空き時間に寛ぎにやって来る学生さんも…また、社会人の方と語り合ったり、教員と一緒にお昼を食べたりする姿も見られます。“空き時間が長い”と困っている学生さんも多く、上記でいうところの、改善の余地があるのかなと思いますが、いかにしてその“空き時間”を有効に使い、充実させるか…そのひとつの場として、どうぞ学生支援室をご利用ください。（境）